

森 里山みらい報

〈第3号〉

この森を育み、この森と生きる。
角間里山みらい
特定非営利活動法人
〒920-1301 金沢市永安町77 電話 FAX076-256-5338
E-mail:npo@satoyamamirai.jp http://satoyamamirai.jp/

角間里山みらい 検索

「アルプの森づくり」が始まる

アジチ谷 社員らが下草刈りや薬草採集

里山に手をくわえることで、自生している薬草・薬木の生育をうながす「アルプの森づくり」が6月29日、金沢大学・角間の里山で始まりました。

NPO法人角間里山みらいのCSR(社会的責任)活動の要請に、株式会社アルプ(本社金沢)が協賛して実現したものです。「森づくり」のスタートにあたるこの日は、金大記念館「角間の里」前に、アルプの社員・家族ら44人をはじめ、スタッフなどをあわせ約70人が集まりました。



斜面の下草刈りに汗を流す=角間の里山・アジチ谷

「社会貢献の一助となるよう取り組む」とあいさつ。来賓の山崎光悦金大学長が「里山の付加価値を世に送り出す意気込みを期待したい」と激励しました。

参加者は雨のなか、キャンパス内のアジチ谷に移動し、下草刈りに鎌をふるうとともに、道ぎわに生えている薬草の中から、カキオドシを採集しました。このシソ科の多年草は利尿、消炎薬として知られ、乾燥して使います。

作業には山崎学長、古賀副会長も汗を流し、作業のあとにはスイカスラ(金銀花茶)の試飲もありました。秋には再度、草を刈り、薬草の苗づくりや薬木の植栽も予定しています。指導にあたった金大薬用植物園の佐々木陽平准教授は「身のまわりにたくさん



家族もいっしょに薬草あつめ

の薬草があるのに、ドクダミ、オオバコを含め現状は7、8割を輸入している。薬草で言えば、日本の山は資源の宝庫であり、有効活用すべき」と参加者に呼びかけました。

「アルプの森づくり」には、金大医薬保健研究域薬学系分子生薬学研究室、金沢市林業振興協議会、金沢森林組合などが協力しました。

「達人から学ぶ」はこんな人にオススメ

●森や里山に興味がある ●子どもに森の大切さを伝えたい ●新しいことにチャレンジしたい ●森や里山で汗を流し、社会貢献をしたい ●環境教育を学び、実践したい。

「森に入ろう。プロジェクト2014~達人から学ぶ」は、日本財団の助成で昨年度から開催、全国各地の「さががけ」となる取り組み、などを紹介しています。

人間力を醸成する大学を



金沢大学学長 山崎 光悦

2014年4月より学長に就任いたしました。教育改革や研究力強化、国際化そしてガバナンス改革など、金沢大学がかかえる課題の解決をスピード感をもって進めるため、先般発出した「YAMAZAKIプラン2014」に沿った大学の機能強化の諸施策を動かしております。地域

教育の場に里山を活用

貢献・社会貢献も大切な柱の一つです。現在の角間キャンパス200ヘクタールのうち、約74ヘクタールは里山あるいはもともとの自然林です。しかし里山も昔のように入会地的な機能は現代生活では必要なく、山林はほとんど自然に戻り、荒れ放題の状況になっています。そんな状況の中、NPO法人角間里山みらいには、角間の里山保全と人材育成などの利活用にご尽力いただいております。この場をお借りし、日ごろの諸活動に敬意を表すると共に、角間の里山保全活

里山はなぜ必要か

「う」と提起。参考として、「薪(まき)の宅配

シリーズ「達人から学ぶ」今年度第1回講座は6月14、15日、生駒市在住の森林ジャーナリストの田中淳夫さんを招きました。金大「角間の里」を会場に24人が受講し、里山の歴史、現状、維持策について考えました。



原点にかえて里山を考える

書き、話し、伝える

30人が「KPP法講座」学ぶ

今期「達人から学ぶ」スタート

「達人から学ぶ」第2回は、「川嶋直さんのKPP法講座」を

金大「角間の里」で7月12、13日に開催しました。

紙芝居プレゼンテーション法の略が「KPP法」で、学生、会社員、公務員、教師、デザイナーなど男女30人近くが受講しました。講師の川嶋直さんは、山梨県の公益財団法人キープ協会環境教育事業部シニアアドバイザーをしており、ユモアをまじえながら「書く、話すことがKPP法」と要約しました。

やりかたは、マーカーで書いたA4判の紙を、1枚ずつホワイトボードに貼って話を展開します。1日目は全員が「私の好きな○○」などのテーマで、「KPP法」に取り組み、ひとり4分以内で発表しました。これを聞いた人たちが、そのつど「ひとこと感想」を書いて、発表者に渡すやりかたも試みました。



頭の中にあるものを書き出してみる

米の大学生が里山体験

竹のマイ箸や笹ずし作り

石川県内で研修中のアメリカの学生らが6月21日、金沢大学の角間の里山を訪れ、ボランティアの手をかりながら、ひととき、SATOYAMA体験をしたのしみました。日本語研修プログラム「プリンストン・イン・石川」に参加している大学生と教師、20人あまりで、金沢大学などの学生らとも交流しました。

はじめに、NPO法人角間里山みらいの三橋俊一理事長と金沢大学の福森義宏副学長が歓迎のあいさつ。学生たちの自己紹介のあ

と、「竹班」と「笹班」にわかれ、それぞれ里山に生えている竹を切り出したり、笹を刈りました。「竹班」は金大五十周年記念館の広場で、竹を削ってマイ箸

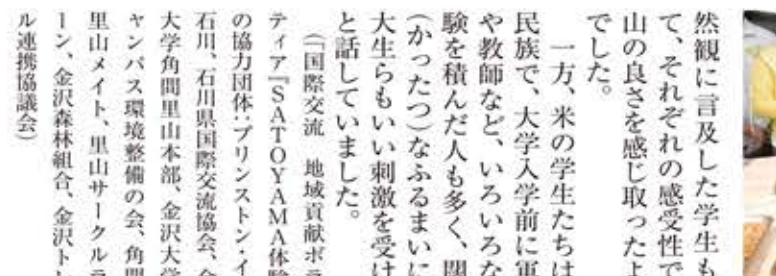


ひとあし早く竹飾りの七夕も用意されて記念撮影=金大「角間の里」

「竹班」は金大五十周年記念館の広場で、竹を削ってマイ箸(はし)づくりに取り組みました。スタッフの懇切な指導で、それぞれが上手に仕上げ、記念に持ち帰ると話す学生もいました。

然観に言及した学生もいて、それぞれの感受性で里山の良さを感じ取ったようでした。一方、米の学生たちは多民族で、大学入学前に軍隊や教師など、いろいろな経験を積んだ人も多く、闊達(かつたつ)なるふるまいに金大生らも刺激を受けたと話していました。

「国際交流 地域貢献ボランティア」SATOYAMA体験」の協力団体「プリンストン・イン・石川、石川県国際交流協会、金沢大学角間里山本部、金沢大学キャンパス環境整備の会、角間の里山メイト、里山サークルラクイン、金沢森林組合、金沢トレイル連携協議会」



ずし飯を笹の葉にのせて、昼食の準備



まずはコミュニケーションゲームでリラックス=金沢市の医王の里



みんなで作ったダッチオープン料理の味は?

里山に親しみながら若い男女に出会いの場をと、「金沢の森ツーリズム」森で、

者をつくめ、20代から40代の男女12人ずつが参加。小グループになって、パエリアやローストチキンなどの4種類のダッチオープン料理を手分けをして作り、会話も楽しみながら食事を楽しみました。

里山の美しさを感じたという人もいました。食事の前後して、火おこし体験や「森

のなかで友達になるゲーム」などを行いました。この「1日キャンプ」は、世話人の配置などをふくめ、角間里山みらいが運営にあたりました。

手入れが欠かせない里山の保全管理のため、角間里山みらいは今年度も6月から、金大の里山で遊歩道や竹林の整備をすすめています。



荒廃竹林の伐採に欠かせ、昨年整備したところも若竹が生えてくるので切らなければ、また荒れ放題になってしまいます。

荒廃竹林などを伐採

角間の里山をこどもも整備

今年度はさらに、当NPO法人の「足腰を鍛える」ため、企業のCSR(社会的責任)にもとづく貢献活動の実現と、会員拡大のふたつを鋭角目標にして、取り組んでいく予定です。

通常総会を開催

前年度は企画室を開設。主な事業として角間の里山ゾーンでの遊歩道整備、市民や学生を対象にした講座や実習、大学などと連携した「角間里山まつり」などに取り組みました。

医王の里で「1日キャンプ」

森に出あう、人にであう

角間里山みらいは6月から9月にかけて「ツリークライミング(®)体験会」を、金大角間の里山・ハナンジヤコ入り口広場で開きました。



木が好き、里山が好きに

親子らが木登り体験会

高さが20メートルのコナラが枝を伸ばす広場に、延べ70人あまりの親子や学生、生徒が参加。金沢の愛好者グループ「ツリークライミング(®)クラブ」が指導にあたりました。



「木のまねっこ体操」のあと、専用のロープや安全保

NPO法人角間里山みらいは5月15日、金沢大学の記念館「角間の里」で通常総会を開き、平成26年度の事業計画などを決めました。

これから実施予定の金沢トレイル

- 「金沢トレイル・秋の2daysトレイル」
 - ・とき/平成26年10月25日(土)~26日(日)
 - ・コース/1日目 医王の里オートキャンプ場~湯涌温泉 2日目 湯涌温泉~熊走町(犀川上流の町)
 - ・参加費/10,000円(大学生以下6,000円)
- 「金沢トレイル・秋の1day紅葉の里山を歩こう」
 - ・とき/平成26年11月16日(日)
 - ・コース/未定
- 「金沢トレイル・冬の1day雪山を歩こう」
 - ・とき/平成27年2月8日(日)
 - ・コース/医王山

春の花も楽しんだセクションハイク=金沢市の国見山周辺



「さあ、歩こう!春の金沢トレイル」(金沢トレイル連携協議会主催)は4月20日、好天のもと、犀川上流域の山並みをのぞみながら、8キロのコースをたのしみました。

金沢市熊走町、国見山(556m)に辰巳ダム駐車場の「セクション」(部分)ハイクとして企画。学生から70代までの約40人が参加しました。

コースの途中には、ユキツバキやスミレサイシン、カタクリなど、季節の花もたくさん見られ、要所々々で県自然保護センター所長・梅雅典さんから動物の話も聞きました。

犀奥の里山などをめぐる「春の金沢トレイル」を開催

金沢トレイルのロゴマーク



金沢トレイル連携協議会(佐川哲也会長)が公募していたロゴマークに、東京都の会社員、清水清和さんの作品=上図=が決まりました。今後の金沢トレイルの案内やグッズなどに用いられる予定です。

循環利用の輪を太く

林野庁の本郷部長が講演



林野庁の本郷浩二森林整備部長(金沢市出身)が8月21日、金沢市で「林業施策などの今後の展開」について講演しました。

の、循環利用の流れを太くしようと呼びかけました。また全国約1千万ヘクタールの人工林は、植えずぎたとみることもでき、一部を天然林にという考え方もあろう。それを現場でどうするかは市町村にかかわる仕事であり、作業プランナーだけでなく森林所有者を交えて取り組んでほしいと強調しました。

3年目を迎えた角間里山みらいの活動はイベントと講座ではじまりました。4月20日の金沢トレイルセクションハイクを皮切りに、達人から学ぶ講座、ツリークライミング®体験会、金沢の森ツーリズム……イベントなどのお知らせは、会員の皆様には随時お送りしておりますが、ホームページ、フェイスブックでも公開しています。

【会員募集のお願い】

里山の豊かな自然といのちを未来へつなぎ、育てていくために、一緒に汗を流しませんか。自然を愛する人たちとの出会いや、新しい発見・感動を分かち合ひましょう。皆様のご入会とサポートを心よりお待ちしております。会員には、当法人が開催するセミナー、イベント等のお知らせと会報誌(年2回)をお送りいたします。

【年会費】期間:4月1日~翌年3月31日

- 正会員・個人会員 1口5,000円 団体会員 1口20,000円(当法人の目的に賛同して入会する個人および団体、議決権があります。)

- 賛助会員・個人会員 1口3,000円 団体会員 1口10,000円(当法人の事業を賛助するために入会する個人および団体、議決権はありません。)

【お申し込み】

当法人の目的に賛同または事業を賛助するために、年会費を納入いただくと会員となります。納入は、下記の郵便口座へ払込みをお願いします。

- 加入者名 特定非営利活動法人 角間里山みらい
- 口座記号番号 00720-1-40902
- ※払込料金は、当法人が負担します。払込用紙には、郵便番号、住所、お名前、連絡先を必ずご記入ください。ゆうちょ銀行の口座もごさいます。詳しくはホームページをご覧くださいか、事務局へお問い合わせください。

【ご寄付のお願い】

角間里山みらいは、里山に再び人の営みをよみがえらせ、かけがえない自然を未来に継承していくため、大学、企業、行政、地域の方々と連携し里山の保全活動を行っています。当法人の取り組みを理解していただける皆様に、活動の一層の充実のため、ご寄付を募っております。ご支援、ご協力のほど、お願い申し上げます。